

## 追加関連論文 (6-メチルキノリン)

- 追1 La Voie E.J, Defauw J, Fealy M, Way B.M and McQueen C.A: Genotoxicity of fluoroquinolones and methylquinolones. *Carcinogenesis* 1991; 12(2): 217-220

．．．P1

SD ラットより摘出した肝細胞を用いた不定期 DNA 合成 (UDS) 試験 (最高濃度 500  $\mu$ M (0.07 mg/mL)) では、陰性であった。

- 追2 Beedham C: Molybdenum hydroxylases as drug-metabolizing enzymes. *Drug Metabolism Reviews* 1985; 16(1&2): 119-156

．．．P5

6-メチルキノリンは、アルデヒドオキシダーゼにより、メチル基が酸化されてキノリン-6-カルボキシアルデヒドとなった後、2位の炭素が酸化を受け、1,2-ジヒドロ-2-オキソ-キノリン-6-カルボキシアルデヒド、さらに 1,2-ジヒドロ-2-オキソ-キノリン-6-カルボン酸に代謝されるとの報告がある。

(該当箇所は論文中 130-131, 142 頁 (通し番号では 16-17, 28 頁))

- 追3 Nishimura K. and Masuda M. Minor constituents of whisky fusel oils. 1. basic, phenolic and lactonic compounds. *Journal of Food Science*. 1971; 36: 819-822

．．．P43

- 追4 Viro M. Heterocyclic nitrogen compounds in whisky and beer. *Chromatographia* 1984; 19: 448-451

．．．P47

6-メチルキノリンは、ウイスキーに含まれる (製造工程においてピート (泥炭) の煙で乾燥させた麦芽に含まれるといわれている。) 成分である。